

6月

↓アジュール舞子の草花・花木 6月

ヒペリカム・ヒドコート (大輪キンシバイ)

ツバキ目オトギリソウ科オトギリソウ属の耐寒性半落葉低木です。葉は、楕円形で緑色をしており、秋に紅葉します。枝に艶のある黄色い五弁の丸花を多数つけます。花は全開します。キンシバイ(金糸梅)の園芸品種です。



ビヨウヤナギ 美容柳

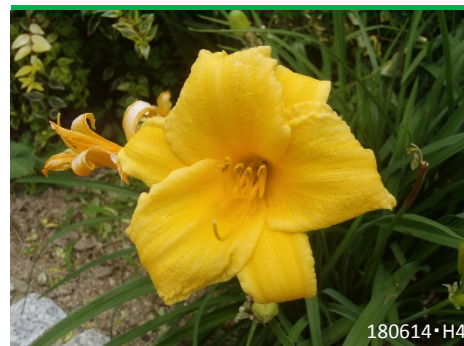
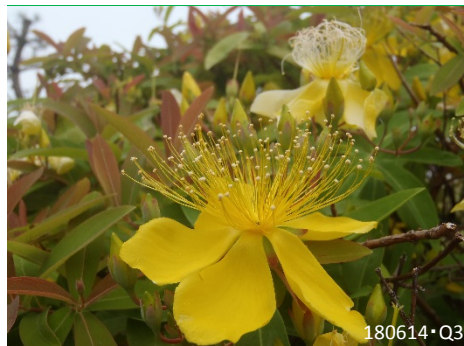
中国原産、オトギリソウ科の半落葉低木。花期は5-7月頃で直径5センチ程度の黄色の5枚の花弁のある花を咲かせる。キンシバイにも似ている。

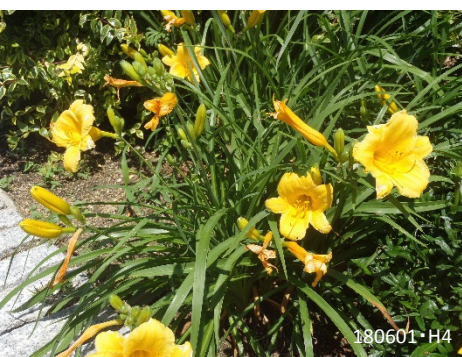
ヘメロカリス

初夏から夏にかけて次々と花を咲かせる多年草。「デイリリー」の英名どおり、花は一日花ですが、1本の花茎にたくさんの花を咲かせ、何本も立ち上がるので、長期間花が楽しめます。園芸品種は2万以上あるといわれ、花色、花形、草姿などさまざまです。午前中の花が美しいです。

ヒペリカム・カリシナム

ビヨウヤナギやキンシバイの仲間ですが、草丈20~60cmの矮性種で、グランドカバーに適します。花は小さいが、株全面に咲く。日なたでもよく育つ。花期は長く、夏の高温時にもよく咲く。花色は黄。葉が黄金色の品種もあります。





180601・H4



180614・H5



180614・H5

ハクチョウゲ

中国、台湾、インドシナなどに分布する常緑性の低木で、樹高は60cm～1m程度に収まります。5月～6月に1cm足らずの星形を白い花を株いっぱい咲かせます。遠目からではあまり気づかないですが、シンプルでなかなか可愛い花です。



180615・M5



180601・H5



180601・M4



180614・M4

ハコネウツギ 箱根空木

スイカズラ科タニウツギ属の落葉低木。一本の木や枝に赤花と白花をつけることから源氏の赤旗、平家の白旗をもじって源平空木とも呼ばれている。



180601・M4

ネズミモチ

葉は卵形で先端がとがってやや厚みがあり、表面に光沢があります。6月頃に先端が4つに裂けたラッパ状の小さな白花をまとめてたくさん咲かせます。果実はだ円形で秋に黒紫色に熟します。果実がネズミの糞に似ており、葉がモチノキに似ているのでこの名前があります。



180601・N4

シモツケ 下野

バラ科シモツケ属の落葉低木。地際からたくさんの枝を出して広がり、葉は長楕円形で長さ5cm～10cm、秋に紅葉します。主な開花期は晩春～初夏、淡い紅色の小さな花をたくさん咲かせます。



180609・H5



180601・H5

↓アジュール舞子の草花・花木 6月

フェイジョア

南米を原産、冬も葉が落ちない常緑性の樹木で果実を食用とする果樹です。5月～6月に径4cmほどの花を咲かせます。花びらは外側が白で内側が暗紫色、真っ赤な糸を束ねたような多数の雄しべが花の中心から放射状に伸び、非常に目立ちます。果実は最初緑色で熟すと赤く色づいてきて、中秋～晩秋が食べ頃になります。



ネムノキ 合歓の木

ネムノキは東北地方以南に生育する落葉の高木。梅雨の終わりから盛夏にかけて咲く花は繊細で美しい。長く伸びた糸状のものはおしべである。独特の花弁を持つマメの花とちがう印象があって、独立の科に分類する意見もある。



アメリカノウゼンカズラ

7～9月に咲くノウゼンカズラ科の花。花の特徴は「枝先に円錐花序(枝分かれてして全体が円錐状に見える)を出し、赤橙色ないし黄橙色の筒状の花をつける。ノウゼンカズラよりも花径は小さく、筒は長い。

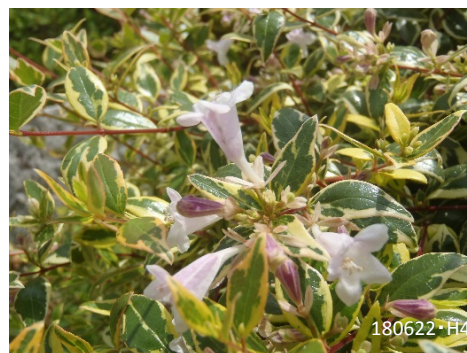
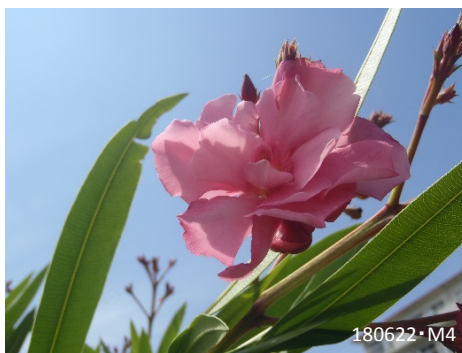


↓アジュール舞子の草花・花木 6月

コバノランタナ

小葉のランタナ

コバノランタナは桃色や白色の花を咲かせる匍匐性の低木です。ランタナと同じ仲間である南アフリカ原産の植物で寒さにはあまり強くありませんが、暖地では庭植えで越冬させる事ができます。

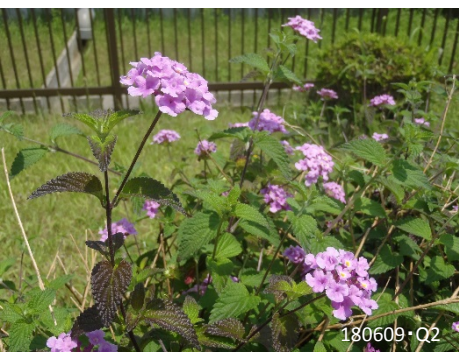


アベリア

低木で、春～秋のかなり長期に渡って、鐘形の小さい花を多数咲かせる。花の香りは非常に強い。日本列島の関東以西では真夏の酷暑の時期に花をつける在来植物が少ないため、この時期にはアベリアの花に多様なハチやチョウが吸蜜に集まる。

ムクゲ 木槿

アオイ科フヨウ属の落葉樹。花は一重咲き、半八重咲き、八重咲きのものがあり花びらの形や枚数によってさらに細かく分類されます。色は白、濃紅、濃紫、青紫、ピンクなどがあります。花は短命で朝咲いたらその日の夕方にはしぼんでしまう一日花です。



キョウチクトウ

インド原産。葉は長楕円形で、両端がとがった形。やや薄くて固い。花は、およそ6月より残暑の頃である9月まで開花するピンク、黄色、白など多数の園芸品種があり、八重咲き種もある。



アベリア・ホープレイズ

アベリアの斑入り種で、黄色の外斑と長期間咲き続けるピンクの小花が美しい。

ニシキギ 錦木

枝にコルク質の翼が四方につき、葉は楕円形で、秋に紅葉する。紅葉した美しい姿を「錦」に例えられて錦木の名前が有ります。5月ごろ、黄緑色の小花が咲き、実は赤く熟す。庭木にされ、枝に翼のないものをコマユミ(類似種)という。

↓アジュール舞子の草花・花木 6月



180609・D5



180601・G5

アセビ 馬酔木

馬が食すと酔ったように苦しむことに由来します。茎葉に有毒物質のアセボトキシンが含まれており人間が誤って口にすると腹痛、嘔吐などの症状を起こすことがあります。春にスズランのような甘い香りのする白い花を楽しむことができます。

マサキ

葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざぎざが入り、革のような光沢があり厚めです。

夏に緑がかった白色の小花を咲かせ、冬には赤い実を付けます。熟した実は3~4つに裂けて、中から赤黄色の種子が現れます。

ピラカンサ

バラ科トキワサンザシ属の総称。常緑性の低木で、春に白い小花をさかせ、秋から冬にかけて赤や柿色の果実をたわわに実らせる。



180601・J5



180622・H5



180601・J5

ヒラギナンテン 柎南天

葉っぱがヒラギ、実の付き方がナンテンに似ているためこの名前があります。葉っぱにはとげとげがあり、冬になると赤く色付きます。春には茎の頂点から花茎を横から斜め下に伸ばして、小さな黄色い花をたくさん咲かせます。



180622・H5

トベラ 扉

4~5月になると枝先に芳香のある白い小さな花をたくさん咲かせて丸い果実ができます。

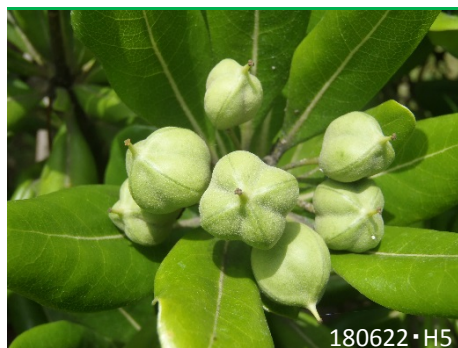
果実は10月頃に熟して3つに裂け、ねばねばとして糸を引いた赤いタネが中から出てきます。雌雄異株で果実は雌株にのみできます。



180609・C5

クロガネモチ

5月~6月にごく淡い紫色がかった小さな花を咲かせます。花自体は小さく目立ちませんが花後に1cm足らずの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実を付けた秋の姿は非常に美しく冬までその姿を楽しむことができます。



180622・H5



180609・C5

ボケ 木瓜

日本、中国を原産とするバラ科ボケ属の落葉低木。

枝にはとげがはえており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」と呼ばれるものが「ボケ」に転化したとも言われる。



180614・J5



180614・O6



180609・O3

ソシンロウバイ

素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みtainな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。



180622・G5

イトラン(ユッカ)

ユリ目リュウゼツラン科ユッカ属の耐寒性常緑低木です。淡いクリーム色の花を釣鐘状にたくさんつける。葉は剣状で硬く、若い葉の縁から振れた繊維が糸状に伸びている。これが名の由来でもある。日本ではリュウゼツラン科ユッカ属のキミガヨランなどとともてに植栽されている。



180609・Q4

ハナズオウ

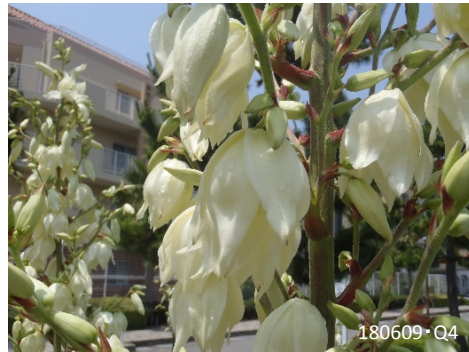
花の咲く時期は4月から5月、葉を出す前に葉の付け根に蝶型の花が数輪まとまって咲きます。花は赤紫色で、大きさは約2cmです。花茎が極端に短いので枝に直接くっついているように見えます。満開時期は花が枝を覆います。花後にキヌサヤインゲンを短くしたような平たい豆鞘がたくさん垂れ下がり、熟すと褐色になります。



180609・J5

ハマナス 浜茄子

バラ科バラ属の落葉低木。夏に赤い花(まれに白花)を咲かせる。根は染料などに、花はお茶などに、果実はローズヒップとして食用になる。



180609・Q4

ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間は200品種を越える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこのヤブツバキと、その変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけです。「つばき」の語源は、厚葉木(あつばき)または艶葉木(つやばき)といわれている。



180614・O6



180609・Q4

↓アジュール舞子の草花・花木 6月

ラベンダー

シソ科の背丈の低い常緑樹。春に紫や白、ピンク色の花を咲かせる様々な品種がある。

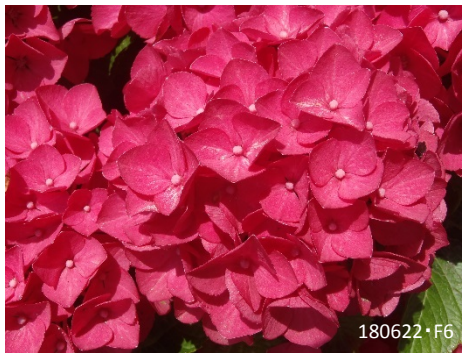
中でも紫色の花が最もポピュラーである。ちなみに、ラベンダー色とは薄紫色を意味する。



180614・R3

アジサイ

アジサイの花は両性花と装飾花の2種で構成されています。両性花は生殖能力のあるいわば花の本体で、装飾花は大きな花びら(じつは萼)をもっていますが雄しべや雌しべが退化しており、実を結ぶことはありません。



180622・F6

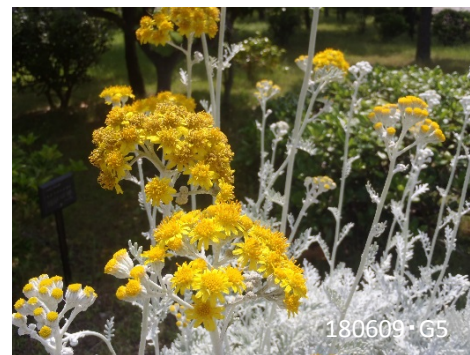


180609・F6

シロタエギク

白妙菊

寒さには強いが高温多湿にやや弱い常緑多年草で、草丈50~100cmくらいになり、茎の下部は木質化する。葉は長さ10cmくらいで羽状の切れ込みがあり、茎や葉は緑だが白い繊毛があり、6月か7月頃に黄色い花が開花する。



180609・G5

ガクアジサイ

花を一塊(ひとかたまり)と見ると、中心部にある紫色をした小さな珊瑚状のものが花(両性花)で、その周辺部にある小花のように見えるものは装飾花(萼片)です。この花の構造が、額縁のように見えるということで額紫陽花(ガクアジサイ)と呼ばれます。



180601・I5



180622・F6

ソトオリヅルラン外斑折鶴蘭

オリヅルランは、南アフリカやインドを中心とした熱帯に自生する多年草です。細長い茎の先に子株をつけて生長し、長く育てていると、春~夏にかけて、小さな白い花を咲かせます。子株の形が折り鶴に似ていることが、名前の由来です。



180609・F6

アフリカハマユウ

(インドハマユウ)

一般的にはまだインドハマユウの名で流通していますが、正しくはアフリカハマユウであることが判明。南アフリカ原産の多年草で、茎の先にテッポウユリやタカサギユリに似た白い花を多数つけます。



180622・O6



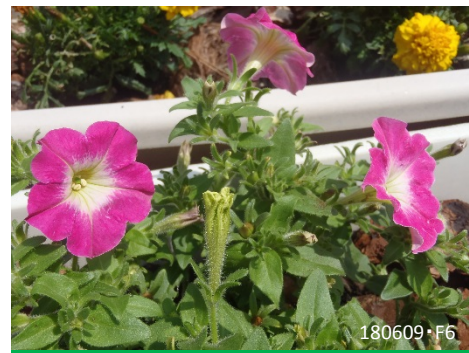
180622・F6

↓アジュール舞子の草花・花木 6月



マツバギク 松葉菊 (サボテンギク)

ハマミズナ科マツバギク属の多年草。
葉は松葉のように棒状で、菊をイメージさせるような花を咲かせる。
花はピンク、白、オレンジ、黄、紫、赤など多彩で、朝に花が開き夕方に花が閉じる。



ランタナ

真ん丸に咲く花の色が少しずつ変化していくのが特徴。基本種は咲き始めがオレンジ色で徐々に黄色に変化していきます。その様子からシチヘンゲ(七変化)の別名がついています。



マリーゴールド

主に春にタネをまき、夏～秋に花を楽しみ、冬前には枯れる一年草です。花色は黄色、オレンジ、赤など暖色系が多いですが、珍しいものでは白やクリーム色の花も知られています。



ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋が付きまします。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。



ガザニア

主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。



ハナハマセンブリ 花浜千振

地中海沿岸の原産で北アメリカなどに帰化している。根生葉はロゼットを形成しない。よく似たペニバナセンブリは花の直径が11～13mmと大きく、普通、花期にも根生葉がロゼット状に残る。



ペチュニア

初夏から秋にかけて咲く草花で、夏の花壇には欠かせない植物の一つです。品種改良も多く、500種以上の園芸品種があります。大輪、中輪、小輪種があり、八重咲き、一重咲きなどのバラエティーもあります。別名「ツクバネアサガオ」とも言います。





180622・H4



180614・K6



180617・F6

ニワゼキショウ 庭石菖

アヤメ科ニワゼキショウ属の1年草。直径5~6mm程度の小さな花。花弁は6枚に分かれる。花色は白と赤紫があり、中央部はどちらも黄色である。花は、受精すると1日でしぼんでしまう。



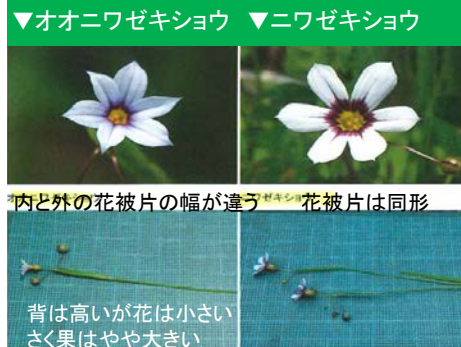
180614・K6

アメリカフウロ

北アメリカ原産の帰化植物。戦後、牧草などに種子が混ざっていて、持ち込まれたものという。路傍や荒地、畑などに生育する。秋に芽生えて春から夏まで、に小さな花を咲かせる。花弁は長さ5mmほどで、淡紅色からほとんど白色までの変異があるが、淡紅色のものが多い。



180614・Q3



▼オオニワゼキショウ ▼ニワゼキショウ

内と外の花被片の幅が違う 花被片は同形

背は高いが花は小さい
さく果はやや大きい



180601・H4

セッカニワゼキショウ 雪花庭石菖

花径はニワゼキショウより小さくオオニワゼキショウと同じくらいの大きさです。草丈はニワゼキショウより少し低め。花弁は白色でニワゼキショウより細く中心部は黄色一色です。白色のニワゼキショウですね、別名小庭石菖とも呼ばれています。



180609・H5



180601・H4

オオニワゼキショウ 大庭石菖

北アメリカ原産のアヤメ科ニワゼキショウ属の1年草または多年草。高さ20~30cmとニワゼキショウより大きくなるが、花は逆に小さく、さく果はやや大きい。花期は5~6月



180617・F6

キュウリグサ 胡瓜草

3~5月に咲くムラサキ科の花。野原や道端に生息する越年草。花径2~3ミリくらいの淡い青紫色をした小さな五弁花を上向きにつける。花の中心は黄色くなっている。和名は、葉をもむとキュウリのようにおいがすることに由来する。

↓アジュール舞子の草花・花木 6月



180602・H4



180601・P3

シロバナマンテマ
 ナデシコ科マンテマ属の多年草。
 ヨーロッパ原産の帰化植物で
 春、路傍や荒地で
 小さな薄桃/白花を咲かせる。

ハタケニラ 畑萋
 花も葉も全体の形もニラにそっくりだが、別種である。ニラ臭はない。農家が手を焼く強害雑草(引き抜く際に鱗茎がちぎれて残ってしまう)である。「ハタケニラ」とは畑に生えてくる迷惑な雑草という意味のようです。



180614・M4



180614・G5



180602・H4

ヒナキキョウソウ 雛桔梗草
 キキョウ科キキョウソウ属の一年草。北アメリカ原産で日当たりの良い草地や荒地など何所にでも生える。茎の最上部に淡青紫色の花を1つ咲かせる。葉腋から出る下部の花はすべて閉鎖花



180601・H4



180601・H4



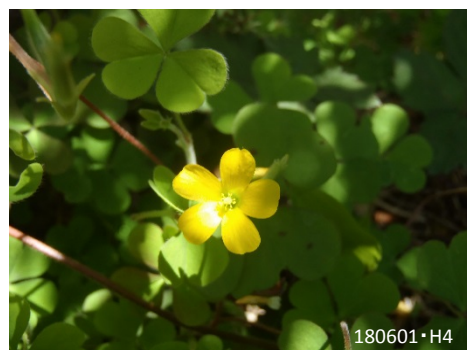
180614・K5

カタバミ 片喰
 地下に球根を持ち、さらにその下に大根のような根を下ろす。匍匐茎をよく伸ばし、地表に広がる。このため、繁殖が早く、しかも根が深いので駆除に困る雑草である。

ヒナギキョウ 雛桔梗
 キキョウ科ヒナギキョウ属の多年草。日当たりの良い原野に生育する。高さ20~40cmになり、7月から9月に小型ではあるが長い柄の先にキキョウにそっくりの花をつける。



180614・L5



180601・H4

ムラサキカタハミ



180609・H4



180601・H5

コマツヨイグサ 小待宵草

アカバナ科マツヨイグサ属
の越年草または多年草。
砂地などに生える
環境省指定要注意外来生物。

ミチバナデシコ

道端撫子

(旧称)イヌコモチナデシコ

ヨーロッパ原産の帰化植物。茎は下部で分岐し、高さ30cm程になる。茎は無毛型と有毛型がある。茎の頂に球状の花序をつけ、直径1cmほどの淡紅色の5弁花を苞片の間から出す。



180622・I5



180614・K5

ユウゲシヨウ 夕化粧

アカバナ科マツヨイグサ属の多年草。和名の由来は、午後遅くに開花して艶っぽい花色を持つことからとされる。帰化植物として温暖な地域に広く分布。



180609・I5

ブタナ 豚菜 (タンポポモドキ)

キク科エゾコウゾリナ属の多年草。ヨーロッパ原産で、日本では外来種(帰化植物)として各地に分布。
環境省指定要注意外来生物



180601・G5



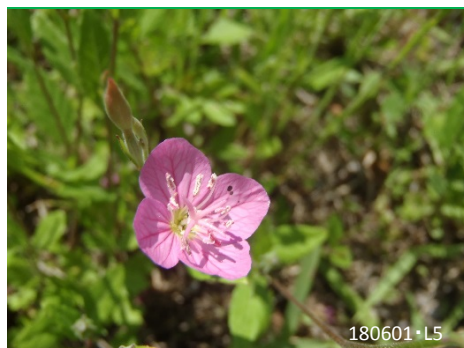
180609・L5



180609・I5

セイヨウヒキヨモギ 西洋引蓬

ゴマノグサ科ヒキヨモギ属の一年草。草丈15から40cmほどの半寄生植物。葉緑素をもち光合成を行うが、宿主からも栄養を吸収する生活形態をとる。



180601・L5



180609・I5

↓アジュール舞子の草花・花木 6月

オニタビラコ

鬼田平子

日本全国のみならず、世界に広く分布している。茎の上部を枝分かれさせて、それぞれに散房花序(柄のある花がたくさんつき、下部の花ほど柄が長いので花序の上部がほぼ平らになる)をつける。花は花径6~8ミリくらいの小さな黄色い頭花である。



アレチノギク 荒地野菊

秋に芽生え、ロゼットで越冬して春から初夏に開花する1年草、夏には30 - 50cm程度まで生長。明治の中頃に帰化し、一時ははびこったが近年は見るのが少なくなった。同属のオオアレチノギクにくらべ、草丈が低いので負けてしまったのではないと思われる。



クスダマツメクサ

薬玉詰草

マメ科シャジクソウ属の一年草。空き地や道ばたなどに生える雑草。和名は、花序が薬玉のように見えることから。



ヒメジョオン

姫女菀

キク科ムカシヨモギ属の一年草。背の高さが50-100cmにもなる。同族のハルジオンと共に道端でよく見かける雑草であり、**環境省指定要注意外来生物**。



シロツメクサ 白詰草 (クローバー)

マメ科シャジクソウ属の多年草。別名、クローバー。原産地はヨーロッパ。花期は春から秋。



コメツブツメクサ

米粒詰草

マメ科シャジクソウ属の一年草。道端や河原などに生える雑草。和名は、シロツメクサに似ているが全体に小さいことに由来する。



↓アジュール舞子の草花・花木 6月

コメツブウマゴヤシ

米粒馬肥

黄色の小さな花を咲かせるマメ科の植物にコメツブツメクサがあります。それによく似たコメツブウマゴヤシあり、コメツブツメクサより背が高く、葉には裏表に白い毛が生えています。花が終わると花殻は残らず、丸まった果実を付けます。



180622・J5



180622・O6



180609・O8

マメゲンバイナズナ

北アメリカ原産。日本には明治中期に渡来した。各地の道ばたなどにふつうに生え、高さ20~50cmになる。葉は濃緑色で光沢がある。花は緑白色で直径約3mm。ときに花弁のないものもある。



ヘラオオバコ 篋大葉子

オオバコ科オオバコ属の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物でヨーロッパではハーブとして食用や薬用に利用。
環境省指定要注意外来生物



180614・K5

咲き始めのほんの短期間以外は、花と果実の両方がついているのが違いの特徴です。



果実

180609・O8

ネジバナ 捩花

芝生や湿地帯の明るい場所に普通に見られる多年草です。株の中心から高さ15~40cmの花茎をまっすぐに伸ばして、螺旋形に花を付けます。右巻きと左巻きの両方があります。



180622・J5

オーニガラム・コーラツム 子持ち蘭

玉ねぎのような鱗茎から長い花茎をのばして、花が咲きます。「子持ち蘭」の名の通り、子の鱗茎がたくさんつき、子供からも新芽が出て、何かの刺激を受けると、ポロリと地面に落下し、根が伸び独立して成長を始めます。



180622・O6

ウラジロチコグサ 裏白父子草

キク科ハハコグサ属。外来種で5月~9月頃にかけて花を咲かせる、南アメリカ原産の多年性草本です。花期までは地をはうようにして茎を伸ばし、花が咲きだす茎を立たせます。「うらじろ」と名のとおり、葉の裏側、茎は白い毛で密に覆われています。



180609・J5

↓アジュール舞子の草花・花木 6月

チガヤ 茅萱

ごく普通に見られるイネ科の多年草である。日当たりのよい空き地に一面にはえ、白い穂を出す。かつては食べられたこともある、古くから親しまれた雑草である。



ハマヒルガオ 浜昼顔

ヒルガオ科ヒルガオ属の多年草。典型的な海濱植物である。要注意外来生物のコマツヨイグサの増加により本種は著しく減少している。



イヌクゲ (カヤツリグサ属)

乾燥気味の日当たりの良い所を好む暖地性の多年草。草丈30センチ～60センチになり、根元より三稜形の長い茎を伸ばし、茎の先に葉と同形の包葉を3個～5個出す。小穂はブラシ状に開出してつけ、小穂の長さ4ミリ～5ミリの円柱形で先端に小花をつける。



コバンソウ 小判草

イネ科コバンソウ属の一年草。イネ科の普通に見られる雑草の一つ。小判に似た形の穂をつけることから名付けられた。



イタドリ

タデ科の多年生植物。別名は、スカンポ、イタンポ、ドンガイ、スッポン、ゴンパチ、エッタン。雌雄異株で、雄花はおしべが花弁の間から飛び出すように長く発達しており、雌花はめしべよりも花弁の方が大きい。夏には、白か赤みを帯びた小さな花を多数着けた花序を出す。



ヒメコバンソウ 姫小判草

イネ科コバンソウ属の一年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。コバンソウに似た小さい小穂(形は三角形)をつけることから名付けられた。



ハマボウフウ 浜防風

被子植物のセリ科ハマボウフウ属の一種。海岸の砂地に自生する多年草。近年自生地が著しく減少している。山菜として食用にするほか、漢方薬・民間療法薬として利用される。



コウボウシバ弘法芝

東アジアからオーストラリアに広く分布し、海岸の砂地に普通な多年草。太い地下茎を伸ばし、丈の低い茎と革質の葉を出す。花期は本格的に暑くなる前の春から初夏。茎頂に雄小穂、葉腋に雌小穂を数個付け、小穂は夏に茶褐色に熟する。

コウボウムギ弘法麦

海浜に生育する多年生の草本。東アジアの海岸に広く分布し、砂丘上にやや疎な群生を作る。古い葉鞘の繊維が地下に残り筆のような形になり、実際に筆として使われたこともあると言われ、別名の方デクサ(筆草)はこれにちなんでいる。

